

第IV章 まとめ

第1節 古墳時代前期溝跡（SD99）出土の古式土師器について

1. 出土状況

古墳時代前期の溝跡は調査区ごとに12区SD99・11区SD99・16区SD99・17区SD9・18区SD4・2区SD9と呼称されているが、同一の遺構である。ここでは最も遺物が出土したSD99を代表させ、この溝跡をSD99と呼ぶこととする。

SD99は上幅0.8～1.3m・深さ0.5～0.9mの溝跡で、約320mにわたって確認された。覆土にはAs-CがまばらにみられることからAs-C降下後に掘削されたか、あるいはAs-C降下以前に掘削されAs-C降下後ある程度の時間を経過後に埋没したと考えられる。溝の下層には水が流れた痕跡が認められることから、SD99は大規模な水路と考えられている。

土器は、溝の埋没がかなり進行した段階で投棄されたような状況で出土しており、全体的に散在するのではなく、いくつかの地点に集中するような傾向が窺える。

2. 分類

ここでは、SD99出土土器を記述するにあたって以下のように分類する（第33～35図）。なお、高坏形土器や器台形土器は「形土器」を省略し、高坏や器台と呼ぶ。甕形土器や壺形土器などについても同様である。

・高坏

A類 坏部が直線的に立ち上がり、坏部最大径が脚部最大径より大きいもの

- ・A1類 坏部下半に稜があるもの
- ・A2類 坏部下半に稜がないもの

B類 坏部が曲線的に立ち上がり、坏部最大径が脚部最大径より小さいもの

- ・B1類 坏部下半に稜があるもの
- ・B2類 坏部下半に稜がないもの

C類 坏部に屈曲部をもつもの

・器台

A類 小型器台

- ・A1類 受け部が直線的に立ち上がるもの
- ・A2類 受け部口縁が直立するもの
- ・A3類 受け部口縁が直立気味に外反するもの

B類 結合器台

高坏 A類



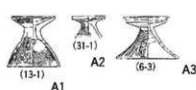
B類



C類



器台 A類



A1

A2

A3

B類

第33図 土器分類図 (1)

・甕

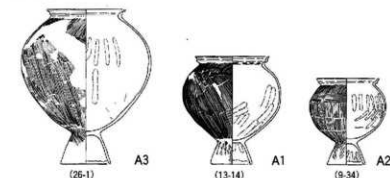
A類 S字口縁付甕（S字甕）

- ・A1類 外面肩部と内面頸部にヨコハケ
- ・A2類 外面肩部にヨコハケ
- ・A3類 ヨコハケなし

B類 単口縁台付甕

C類 単口縁平底甕

甕 A類



B類



C類



B類



・壺

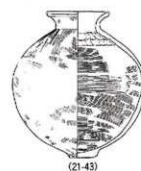
- A類 二重口縁のもの
- B類 複合口縁のもの
(折り返し口縁やその系譜のものを含む)

C類 単口縁のもの

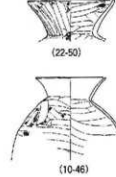
- ・C1類 口縁端部が丸いもの
- ・C2類 口縁端部に面をもつもの

D類 細頸甕

甕 A類

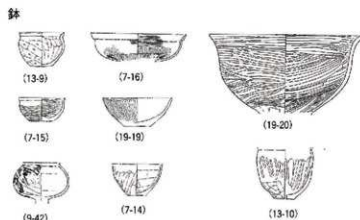


C類



第34図 土器分類図 (2)

・鉢類 多様性があるが、ここでは細分しないで一括する。



第35図 土器分類図(3)

3. 土器各観

各土器の詳細については観察表(表1~8)を作成したので、そちらを参照されたい。

【高坪】

A1類には第7図8(以下、7-8と表記する。)や19-17が、A2類には7-10・11が相当する。B1類は7-7、18-8・12が、B2類は18-6・7・9が相当する。18-16はA1類と同じ系譜に属すると考えられるが、18-16や7-11古い段階のものであり、週間Ⅱ式古段階(赤塚1990)のものに類似する。A・B類はともに東海西部系と考えられるが、B2類は他の地域の影響を受けている可能性がある。7-12は樽式にみられる高坪で、内外面が赤彩されている。周辺で弥生後期の遺構が見つまっていることから、混入の可能性もある。

7-11・18-7の杯部内面には、器面がクレータ状に剥離している部分がみられた(写真図版35)。これは小器割台の受部内面にもみられるもので何らかの使用痕と考えられる(註1)。

【器台】

いわゆる小型器台(A類)と結合器台(B類)がみられる。A類は受部口縁の形態からA1~A3類に分類できる。A1類には6-1・13-1・13-3・18-35が、A2類には31-1が、A3類には6-2・6-3・13-2が相当する。口縁部以外の形態をみると、6-1と31-1以外は脚部と受部は貫通している。また、脚部の形態は11-1がやや内湾気味である以外は「八」の字状に裾広がりになっている。

6-1・6-2・13-1・13-2・13-4の受部内面の中心部はクレータ状に器面が剥離している(写真図版35)。こうした器面の剥離は高坪にもみられるもので、何らかの使用痕と考えられる(註2)。

B類には13-7・18-2・18-3が相当する。B類は北陸地方の裝飾器台に系譜を求める意見が有力である。受部突出部の端部の形態に相違があり、上方につまみあげられているもの(18-3)と面をもつもの(18-2・13-7)がある。

【末】

A類はS字窯である。A1類が7点、A2類が31点、A3類が6点みられる。外面の調整に注目してみると、外面肩部のココハケには、裾が狭いもの(8-32など)・広いもの(8-24)・2段のもの(8-24)がみられる。刷毛調整の前に焼ケズリをおこなっているものは確認できなかった。刷毛調整が密であるために、焼ケズリの痕跡が消えてしまった可能性もある。内面は、縦方向のエビナデを最終調整とするものがほとんどであるが、刷毛調整の痕跡があるもの(13-13・20-33)や焼ケズリの痕跡があるもの(26-5)が認められた。この他、8-32には体部下半に焼成後の穿孔がみられる。

ほとんどのものには体部や台部に煤の付着や二次加熱の痕跡がみられたが、焼成後の穿孔がある8-32には煤

の付着も二次加熱もみられなかった。

次に、形態や大きさについてみていきたい。口縁部の形態には第36図のように多様性がある。aは上段が大きく外反するもの(8-19)。bは上段が大きく外反し、上段内面に横あるいは面をもつもの(8-24・6-29・8-32など)。cは上段が表線的に外反し、内面の屈曲が弱いもの(26-1)。dは下段が厚厚しているもの(13-13・19-23・26-4など)。eは上段が直立気味に外反するもの(8-30・19-26など)。fは屈曲が弱く、全体的に直線的なもの(8-27)である。

aは赤塚分類C類段階のものに類似する。bは赤塚分類B類新段階・C類古段階(週間Ⅱ式1段階)までみられる口縁内面の面取りに系譜を求められるものである。c~fについては、在地化した口縁部形態と考えられる。

体部形態は体部中央付近に最大径があり球形に近いもの(19-23など)、体部中央付近に最大径があるがやや縦長のもの(20-34)、体部上半に最大径があり肩部が張るもの(20-32)がある。口縁部形態と体部形態の相関関係は明確ではない。

大きさについては容量を算出した(註3)。

結果は表11のとおりである。20-32と26-1

は容量がそれぞれ8550mlと8472mlであり、特に大形である。それ以下については、完全な規格品ではないため大きさの違いは漸移的であるが、つくりわけがあったと考えられる。

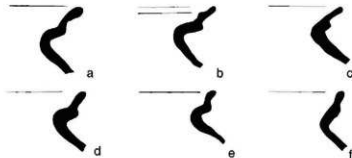
表12は容量が算出されている他の遺跡の例と比較したものである(註4)。分類基準の設定

の仕方にもよるが、2000ml未満・2000ml~3500ml未満・3500ml~6000ml・7000ml以上の

4段階ほどに分類できるだろう。

B類は単口縁台付、C類は単口縁平底である。B類とC類については台部・底部を欠損しているものがあり、両者を分類できないものが多い。B類は29-1のはかに台部のみのものが4点みられる。確実にC類といえるのは23-58・14-23・14-24である。23-56~59は底部を欠損するものもあるが、形態や調整方法に類似点が多いことから、いずれもC類である可能性が高い。

14-20・14-21・23-60・14-22は口縁端部がつまみあげられるものである。北陸系の影響と考えられる。



第36図 S字型口縁部形態

図版	番号	口径(cm)	体部径(cm)	体部高(cm)	容量(ml)
26	2	10.8	14.2	11.1	1019.8
9	34	13	16	13	1666.3
26	4	12	17.4	13.3	2051.6
13	14	15.4	20.5	15.7	2385.6
9	33	13.1	18.5	14.1	2526.4
13	15	15	19.9	14.4	2737.4
26	3	13.1	19.1	15.6	2784.1
20	29	14.1	19.8	15.2	3092.2
20	31	16.4	22	17	3316.2
20	34	13.1	20	18	3659.9
21	38	14.8	22.6	18.2	4567.8
26	1	16.6	27.5	24.3	8472.5
20	32	19	28.2	22.6	8550.5

表11 S字型の容量(1)

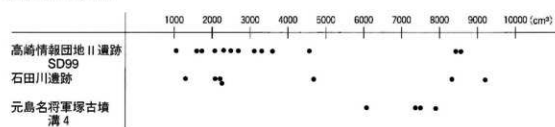


表12 S字型の容量(2)

【並】

A類は二重口縁をもつもので、14-25は畿内系、14-26は口縁部を欠損するが東海系の加筋帯である。
B類には21-43・32-15が相当する。C類は単口縁の広口蓋で、C1類は口縁端部が丸いもので10-46・10-47・10-49・22-50・22-53が、C2類は口縁端部に面をもつもので21-44が相当する。D類は細頸蓋で、10-50・14-27・29-2が相当する。

【鉢】

7-15・9-42・13-9は短く屈曲する口縁部をもつものである（川村1993）。7-13・7-14・19-18・19-19は底部から口縁部にかけて屈曲部をもたないものである。7-16は北陸系と考えられる有段口縁鉢である。

4. 編年の位置づけ

ここでは、田口一郎氏のS字変編年（田口1981・2000）を参考にしてSD99出土土器の編年の位置づけについて検討したい。

SD99ではA1類が7点、A2類が31点、A3類が6点みられた。A1類はおおむね田口分類Ⅱ類に、A2類はⅢ類、A3類はⅣ類に相当し、Ⅱ類はⅠ期～Ⅱ期、Ⅲ類はⅢ期～Ⅳ期、Ⅳ類はⅤ期～Ⅵ期に位置づけられている。Ⅳ類と本遺跡のA3類を比較してみると、A3類にはⅣ-C類のような長頸化はみられないが、Ⅳ-B類と同様に口縁上段内面が窪んでいるものがみられることが分かる。このことから、A3類はⅤ期までは下らないと考えられる。

次にⅡ期の基準資料となっている元島名將軍塚古墳第4中層（以下、溝4中層）出土のS字変と比較してみると、溝4中層では底部内面が刷毛調整されているものや肩部のヨコハナが頸部直下からあるものがみられるなど、SD99出土土器より古い要素がみられる。

Ⅳ期の基準資料となっている新保田中村前遺跡52号土坑（以下、52号土坑）では、A2類9点・A3類16点で、A1類はみられない。SD99ではA2類が主体のに対し、52号土坑ではA3類が主体となる。また、52号土坑では外面の刷毛調整が整ったものがみられるなどSD99より新しい要素がみられる。

以上のことから、SD99出土のS字変は田口編年Ⅲ期を中心とする時期に位置づけられる（図5）。

5. 小 結

SD99出土土器について簡単にまとめておきたい。まず、出土状況であるが、土器は散在するのではなくいくつかの廃棄単位（第5・12・16・17図）がみられた。この廃棄単位を比較してみると次のことが指摘できる。①それぞれの廃棄単位では器種構成に偏りがない。②類似する器がまとめて出土している。例えば、12区（第5図）ではS字変が4点、11区（第12図）では北陸系の影響がみられる器が3点、16区（第17図）では形製・調整方法が類似する単口縁（平底）器が3点出土している。

編年的には、田口氏のS字変編年のⅢ期を中心とする時期に位置づけられる。

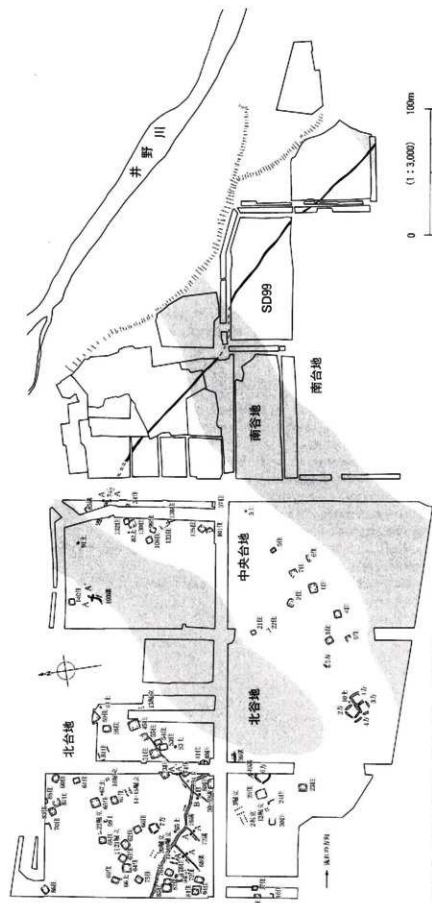
第2節 高崎情報団地遺跡との関連について

ここでは、本遺跡（以下、Ⅱ遺跡）の東側に隣接する高崎情報団地遺跡（以下、Ⅰ遺跡）の関係について簡単にまとめた。

遺跡地の地形をみると、井野川に直交するかたちで谷が形成されている。北側の谷を北谷地、南側の谷を南谷地と呼び、台地については北側から北台地・中央台地・南台地と呼ぶことにする（第37図）。

Ⅰ遺跡では、古墳時代前期の遺構は竪穴住居跡が約60軒・独立柱建物跡13棟・土坑8基・溝9条が確認された。北台地と中央台地には北谷地を取り囲むように遺構が分布している。方形周溝墓は弥生時代後期のもので、古墳時代前期の墓域はみつからない。

Ⅰ遺跡の58号溝は幅約1.8m・深さ約80cmで、下層にはAs-Cのレンズ状の堆積がみられる。砂粒の堆積もみ



第37図 高崎情報団地遺跡の遺構分布図（弥生・古墳前期）
（※井野川1997より転載、一部加筆）

第四章 ま と め

れることから、As-C降下以前に掘削され、その後も機能していたと考えられている。36号溝とは同一の遺構であると考えられ、中央台地には掘いていないことから北低地に水を流していたと推測される。40・41号住居跡の手前で南に大きく方向を変えているのは、これらの遺構を避けたためだろう。

58号溝からは土器が多数出土している。出土層位はAs-C堆積層の上層であり、比較的完形に近いものがまとも出土していることから、As-C降下後に放棄されたものと考えられている。

Ⅱ遺跡SD99は、Ⅰ遺跡74号溝と同一の遺構と考えられ、58号溝と同様に土器がまとも出土している。土器については第1節で述べたとおりである。74号溝では、甕A2類1点・A3類1点、柱状脚高坏1点などが出土している。SD99と58号溝の時間的な関係については、土層の堆積状況からみるとSD99の廃絶時期は58号溝のそれより、やや新しいと考えられる。

註

- (1) こうした測量は、石田川遺跡出土の高坏や器台でも確認された（小泉・飯島2000）。
- (2) 註1に同じ。
- (3) 器台が最も狭くなっている部分から底面までの容量を計測した。方法は、高さ1mmの円柱が累積したものと仮定し、実測図（等価）から計測した。小泉・飯島1998と同じ方法である。
- (4) 元島名跡家塚古墳の報告（出口勲1983）では計測方法は明示されていないが、石田川遺跡や本遺跡の結果と大きな差はないと判断した。
- (5) 遺跡を中心とするが、Ⅱ～Ⅳ期にわたる可能性もある。しかし、例えば高城氏の福年案（寛徳1997）に従うならば、それほど時間軸を考える必要はないと思われる。S字美の福年については今後の課題としたい。

主要参考文献

- 板倉隆定・小島敦子ほか 1993 『新保田中村遺跡Ⅱ』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第151巻
永塚次郎 1990 「V 考察」『越前遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10巻
川村浩司 1993 『小笠原跡跡形土器考』『考古研究』5
小泉龍明・飯島直雄 1998 『石田川式土器の再検討（1）―器形土器を中心として―』『群馬県立歴史博物館紀要』19
小泉龍明・井上真崇・飯島直雄 2000 『石田川式土器の再検討（3）―高坏・器台・鉢形土器を中心として―』『群馬県立歴史博物館紀要』21
高橋浩二 1997 「S字状口縁台付甕の伝播とその評価」『国家形成期の考古学―大阪大学考古学研究所10周年記念論集―』
田口一郎 1981 「S字状口縁台付甕の分類と編年」『元島名跡家塚古墳』茨城県文化財調査報告書第22巻
田口一郎ほか1981 『元島名跡家塚古墳』茨城県文化財調査報告書第22巻
田口一郎 2000 「北関東西部におけるS字口縁美の伝及と定考」『S字美を考える』第7回関東考古学フォーラム三重大会
長井正臣ほか 1997 『高崎特報刊布遺跡』高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第35巻
原田 幹 1996 「S字美の分布と地域型」『美と美そのデザイン』第4回関東考古学フォーラム
比田井定一 1993 『家内における外來系土器の展開』『考古学』
深沢敦仁 1998 「上野における土器の交流と展開」『土内式土器研究』XⅡ

写真図版

写真図版 1



2区全景（南東から） 右に見えるのが井野川

写真図版 2



2区全景（右が北）

写真図版 3



16区SD99全景（南東から）

写真図版 4

11区SD99
遺物出土状況



11区SD99
遺物出土状況



11区SD99
遺物出土状況



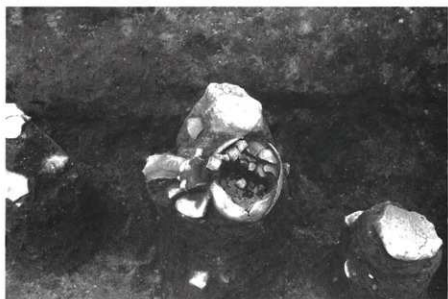
写真図版 5



11区SD99
遺物出土状況



11区SD99
遺物出土状況



11区SD99
遺物出土状況

写真図版 6

11区SD99
遺物出土状況

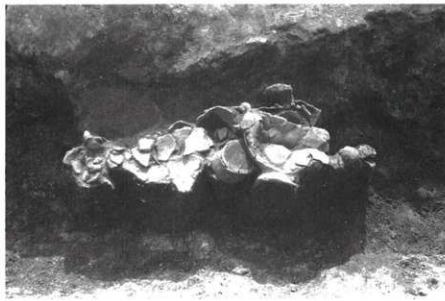


11区SD99
遺物出土状況

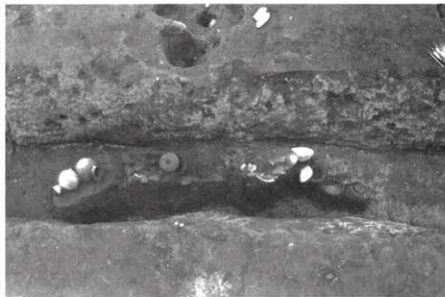


12区SD99
遺物出土状況
東から





12区SD99
遺物出土状況
東から



12区SD99
遺物出土状況
東から



12区SD99
遺物出土状況
東から

12区SD99
遺物出土状況
東から



12区SD99
遺物出土状況
東から



16区SD99
遺物出土状況
北から



写真図版 9



16区SD99
遺物出土状況
東から



16区SD99
土層断面O-O'



16区SD99
遺物出土状況
東から

写真図版10

16区SD99
遺物出土状況
西から



16区SD99
遺物出土状況
南から



16区SD99
土層断面G-G'
北から



写真図版11



16区SD99
遺物出土状況
東から



16区SD99
遺物出土状況
東から



16区SD99
土層断面B-B'
南から

写真図版12

18区SD4
土層断面B-B'
南から



18区SD4
完掘状況
南から



18区SD4
遺物出土状況
東から



写真図版13



18区SD4
土層断面D—D'
南から



18区SD4
土層断面C—C'
南から



18区
作業風景
南から

写真図版14



16区SD99遺物出土状況 東から



16区SD99遺物出土状況 南東から

写真図版15



16区作業風景 北から



16区SD99発掘状況 南から

写真図版16



11区SD99発掘状況 南から



16区SD99遺物出土状況 南から



16区SD99遺物出土状況 南から



16区SD99遺物出土状況 南から

写真図版17



12区SD99 第8図32



12区SD99 第9図34



12区SD99 第9図38



12区SD99 第9図39



12区SD99 第9図43



12区SD99 第10図46

写真図版18



12区SD99 第10図47



12区SD99 第10図48



12区SD99 第10図49



12区SD99 第10図50



12区SD99 第10図51



11区SD99 第13図1



11区SD99 第13图14



11区SD99 第13图15



11区SD99 第14图25



11区SD99 第14图27



11区SD99 第14图28



16区SD99 第18图3



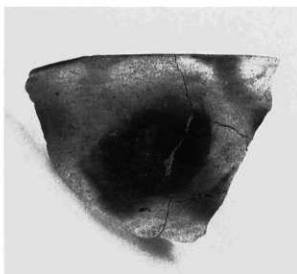
16区SD99 第18图7



16区SD99 第18图16



16区SD99 第19图17



16区SD99 第19图20



16区SD99 第19图28 (外面)



16区SD99 第19图28 (内面)

写真図版21



16区SD99 第19図23



16区SD99 第19図24



16区SD99 第20図29



16区SD99 第20図31



16区SD99 第20図32



16区SD99 第20図34

写真図版22



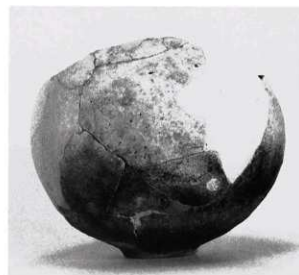
16区SD99 第21図38



16区SD99 第21図43



16区SD99 第21図44



16区SD99 第21図45



16区SD99 第21図46



16区SD99 第22図47



16区SD99 第22图48



16区SD99 第22图49



16区SD99 第23图56



16区SD99 第23图57



16区SD99 第23图58



16区SD99 第23图59



16区SD99 第23图60



17区SD9 第26图1



17区SD9 第26图2



17区SD9 第26图3



17区SD9 第26图4



17区SD9 第26图5

写真図版25



12区SD99 第6図1



12区SD99 第6図2



12区SD99 第7図10



12区SD99 第7図12



12区SD99 第7図13



12区SD99 第8図21



12区SD99 第8図30



12区SD99 第9図40



11区SD99 第13図4



11区SD99 第13図5



11区SD99 第13図9



11区SD99 第13図11

写真図版26



16区SD99 第18図5



16区SD99 第18図6



16区SD99 第18図10



16区SD99 第18図12



16区SD99 第18図13



16区SD99 第19図18



16区SD99 第20図30



16区SD99 第22図51



16区SD99 第23図64



2区SD9 第29図2



2区SD9 第29図4

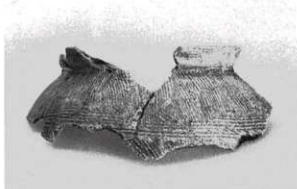


11区SD99 第14図29

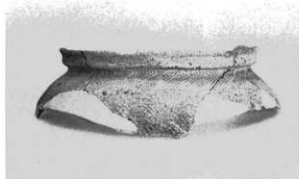
写真図版27



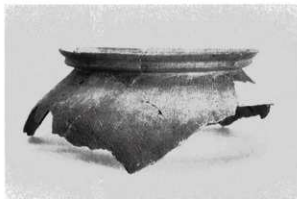
12区SD99 第8図20



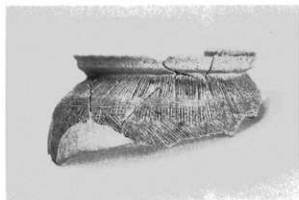
12区SD99 第8図22



12区SD99 第8図23



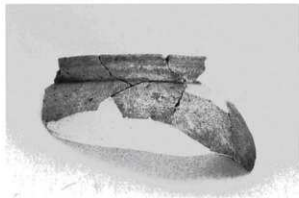
12区SD99 第8図24



12区SD99 第8図25



12区SD99 第8図26



12区SD99 第8図27



12区SD99 第8図29

写真図版28



12区SD99 第6図3



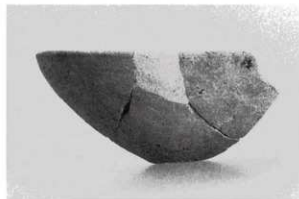
12区SD99 第7図4



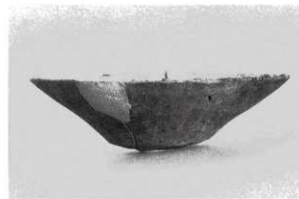
12区SD99 第7図5



12区SD99 第7図6



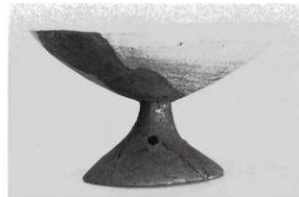
12区SD99 第7図7



12区SD99 第7図8



12区SD99 第7図9



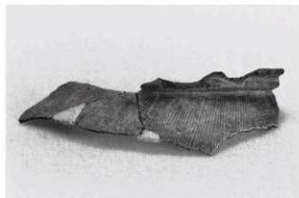
12区SD99 第7図11



12区SD99 第7図14



12区SD99 第7図16



12区SD99 第8図19



12区SD99 第8図31



12区SD99 第9図33



12区SD99 第9図37



12区SD99 第9図41



12区SD99 第9図42



12区SD99 第9図44



12区SD99 第9図45



12区SD99 第10図52



12区SD99 第10図53



12区SD99 第10図54



11区SD99 第13図2



11区SD99 第13図3



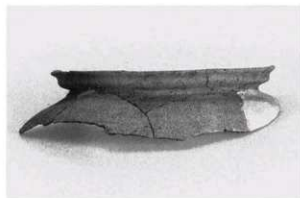
11区SD99 第13図6



11区SD99 第13图7



11区SD99 第13图10



11区SD99 第13图12



11区SD99 第13图13



11区SD99 第13图16



11区SD99 第13图18



11区SD99 第14图20



11区SD99 第14图21



11区SD99 第14图22



11区SD99 第14图23



11区SD99 第14图24



11区SD99 第14图26



16区SD99 第18图2



16区SD99 第18图2



16区SD99 第18图4



16区SD99 第18图8



16区SD99 第18図9



16区SD99 第18図11



16区SD99 第18図14



16区SD99 第18図15



16区SD99 第19図19



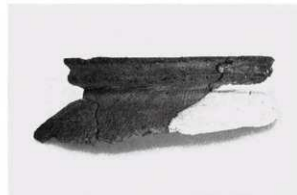
16区SD99 第19図21



16区SD99 第19図22



16区SD99 第19図22



16区SD99 第19図26



16区SD99 第20図33



16区SD99 第20図35



16区SD99 第20図36



16区SD99 第21図39



16区SD99 第21図40



16区SD99 第22図54



16区SD99 第22図54



16区SD99 第22図50



16区SD99 第22図53



16区SD99 第22図55



2区SD9 第29図3



17区SD9 第26図6



第13図1 器台受部内面の剥離



第18図7 高坏坏部内面の剥離



第6図2 器台受部内面の剥離

抄 録

フ リ ガ ナ	タカサキジョウキウダンチニセキ
書 名	高崎情報団地Ⅱ通跡
シ リーズ 名	高崎市文化財調査報告書
シ リーズ 番号	第177集
編 著 者 名	角田真也(第1分冊)、小泉範明(第2分冊)、関口修(第2、第3分冊)
編 集 発 行 機 関	高崎市教育委員会 〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発 行 年 月 日	西暦2002年3月15日

所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
高崎情報団地Ⅱ	群馬県高崎市 中太田町	102020	309	39°19'30" — 39°19'36"	139°03'36" — 139°03'39"	19970418 — 19991123	41,577.1 m ²	高崎情報団地 造成

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特記事項
高崎情報団地Ⅱ	集落跡	縄文時代	住居35軒 土坑(埋甕、集石土坑、袋状土坑含む)	縄文土器、石器	草創期～後期(中間中心)
	集落跡	弥生時代	住居4軒	埴式土器 磨製石器	
	溝	古墳時代前期	作居13軒、溝	土師器、手捏土器	99号溝から遺物大量に出土
	墳墓集落跡	古墳時代中・後期	古墳4基、住居447軒、土坑、溝、掘立柱建物	埴輪、鉄製品、土師器、須恵器、鉄鉢、玉璽、砥石、土製品、石製埴輪	初期須恵器 朝鮮三国系鉄質土器
	集落跡 道路跡 墳墓 水田跡	奈良・平安時代	住居5軒、掘立柱建物、道路 状遺構、土坑、溝、水田	土師器、須恵器、砥石、鉄製品、白磁	道路状遺構(鎌定東山道) 浅間B峠下水田
	屋敷跡 水田跡	中・近世	井戸、土坑、ピット群、溝、水田	歌賀陶器、青磁、石臼、板碑	稲鉤址2

高崎情報団地Ⅱ遺跡

高崎市文化財調査報告書第177集

《古墳時代前期溝跡編》

印刷 平成14年3月15日

発行 平成14年3月15日

編集 高崎市教育委員会

高崎市高松町35番地1 TEL 027(321)1111

印刷 上武印刷株式会社

高崎市島野町890-25 TEL 027(352)7445

